

第2回学校運営部会 議事録

(1) 日 時：令和6年6月18日（火）午後7時より、（教育会館 第4研修室）

(2) 参加者：委員13名、事務局9名

(3) 内 容

1. 部会長あいさつ

2. 資料説明及び意見交換

①入学説明会について【資料1】

②学校指定物品・日課表・部活動について【資料2・3・4】

③連携型中高一貫教育について

《資料説明及び意見交換》

部会長 ・本日の流れについて、事務局より説明をお願いする。

事務局 ・レジュメをご覧いただきたい。前半は前回に引き続き、今年の入学説明会での説明事項についての詳細を検討および決定をいただきたい。説明事項は、学校指定物品・日課表・部活動になる。後半は新中学校の教育の核となる連携型中高一貫教育について、これまでに出了意見を参考に協議を進めたい。

部会長 ・説明に従い進めていきたいと思う。引き続き事務局より説明をお願いする。

事務局 ・それでは説明させていただく。前回も説明させていただいたが、12月に学校説明会を予定している。その中でおよその方向性を決めた説明ができないと生徒および保護者が不安を感じると思う。まずは入学説明会について説明する。資料1をご覧いただきたい。例年の入学説明会では、2月に各中学校にお集まりいただき、中学校生活についてのご説明をしているが、今年度は制服等の採寸を12月にはしないと納品が間に合わないため、12月に説明会を予定している。説明会では採寸だけでなく、色々な話をすると思う。日時は令和6年12月5日（木）の14:30から、会場はジオアリーナを予定しており、各小学校からのバスを手配し、お越しいただく予定をしている。当日は少しでも新中学校への期待を高めてもらえるように、先輩からのビデオメッセージを予定している。若い世代で知名度のある方ということで考えているが、候補があればご提案いただきたい。メッセージの後には簡単な仲間づくりゲームを実施し、生徒間の交流を図りたいと思う。説明会の内容の中で、日課表や学校行事については後ほど協議をいただきたい。特に修学旅行について、令和7年度の新1年生は、1・2年次を各中学校で過ごし、3年次から新中学校で合流する形になる。例年であれば3年次の始めに修学旅行に行くが、その場合、合流したばかりの生徒同士で修学旅行に行くことになるため、三中学校の校長との協議の中では、2年次の終わりに修学旅行に行く案が出ている。例年、説明会後の土曜日に物品販売を実施しているため、今年度も説明会後の12月7日（土）に物品販売を予定している。なお、新中学校に1・2年生として合流する生徒については、各中学校での説明会を予定している。以上になる。

部会長 ・今の説明に対し、ご意見等はあるか。

委員1 ・新中学校として入学するにはまだ時間があるかと思うが、入学するまでに説明会は何回実施する予定か。

事務局	・新入生に対しての説明会という意味で良いか。
委員 2	・12月5日以降での実施予定についてになる。
部会長	・3年生になるまでにという意味かと思う。
事務局	・12月5日の説明会を終えると、一旦は現在の三中学校に入学することになる。三中学校に入学後に全体を集めての説明会を実施することについては現状、予定していない。いただいたご意見としては、説明会を頻繁に実施すべきということではよろしいか。
委員 3	・入学までの流れがイメージし辛い。
事務局	・令和6年度に各小学校を卒業する生徒は、令和7年度に三中学校の1年生として入学する。その後、1・2年次を三中学校の生徒として過ごし、令和9年度に3年生に進級する際に、新中学校に合流する形になる。
委員 4	・わかった。もう一点、説明会を平日に行うことについて適切なのか疑問を感じる。例年であれば、各小学校から三中学校に入学するという流れは、わかっていたことであり、ある程度のイメージのもと準備ができていたように思う。しかし、新中学校になることで、今までとは違う、初めての流れになる。子どもと保護者で考えたときに、新中学校になることでの影響は保護者の方が大きいように思う。そのため説明会については子どもよりも保護者に重きを置くべきかと思うが、保護者に重きを置くうえで平日に説明会を実施することについては適切とは思えない。
事務局	・事務局としては、子どもと保護者の関係として、どちらかだけが説明を聞いている形ではなく、双方が一緒に説明を聞ける状況を想定している。その方が不安を解消できると考えている。
部会長	・良いご意見だったと思うので、ご検討いただければと思う。他にあるか。
事務局	・ご意見としては、夜や休日の実施ということで良いか。
委員 5	・平日の日中となると基本的には保護者は仕事に行っているため、予定を合わせ難い。平日の夜、もしくは休日に実施する方が予定を合わせやすいと思う。子どもへの説明も重要かとは思いますが、入学に伴う準備等を考えると保護者に重きを置きつつ子どもの参加も促す形で、なるべく多くの方にご参加いただけることが適切だと感じた。説明会の実施を複数回で予定しているなら、12月5日に参加できなくても次の回に参加できれば良いが、1回限りであるならば、日時については再考すべきかと思う。
事務局	・12月5日は案になるので、今回の意見を受けて再度検討したいと思う。
部会長	・仮に説明会が1回限りであるならば、その1回に参加できなかった人に対しては、どのように対応するのか。
事務局	・子ども達については授業の一環として説明会を行うため、基本的には参加できないことはないと思う。
部会長	・体調不良等で学校を欠席している場合は参加できない。
医務局	・そういう意味では、参加できないことも有り得る。保護者については、説明会の様子を録画し、学校のHP等でご確認いただくことも方法としては可能かと思う。
部会長	・内容を知ることではできるかと思うが、質問はできない。現状を把握できてはいないが、不登校の生徒の場合、説明会への参加が難しい。そうすると、より一層、学校から遠ざかってしまう。保護者にしても1回限りだから参加で

	きない場合は録画を見るように言われても、見ない人もいるかもしれない。一人一人に向き合って、少数が切り捨てられないように意識してほしい。他にご意見はあるか。
委員 6	・説明会は 14 : 30 からとなっており、生徒のレクリエーションも予定しているとのことだが、実際にはどのくらい時間を予定しているのか。
事務局	・14 : 30 から 16 : 00 で予定をしている。
委員 7	・説明会の中で一番重きを置くべきは質疑応答かと思う。保護者もたくさん質問をと思う。その時間をしっかり確保してほしい。
事務局	・質疑については、説明会当日以外にも、学校から事前に質疑をいただき、当日に回答できるように準備する。6 月中に小学校の先生にお集まりいただく機会があるので、そこでも話をする。
部会長	・事前に質疑をとるのは良いが、学校を経由しない方が良いと思う。学校を経由すると、質問し辛くなってしまうかもしれない。QR コードなどで事務局に直接、質問できる形の方が、より率直な意見が聞けると思う。
事務局	・学校で準備しているものとは別の形ということで、いただいたご意見をもとに検討させていただく。
部会長	・バスについては貸切ということで良いか。
事務局	・その認識で良いかと思う。バスについては予算を確保している。
委員 8	・説明・交流・質疑応答を 2 時間程度で実施するということか。
事務局	・そのように予定している。
部会長	・交流のゲームはどうやって決めたのか。
事務局	・中部中学校の入学説明会にて似た形を実施しており、そちらを参考にしている。ゲーム内容については事務局で検討している。
部会長	・子ども達には聞かないのか。それは目指す生徒像および学校像に沿っているのか。入学前であっても機会があれば生徒に投げかけて良いと思う。
事務局	・事務局として 9 校ある小学校とどのように繋がっていくと良いか。そうした点も踏まえながら、いただいたご意見について検討させていただく。
部会長	・検討の中で、学校の負担を増やす形にならないようにしてほしい。先程の QR コードのように学校を経由せずに直接、事務局が意見を集める方法はあると思う。
事務局	・先程も申したように、6 月中に小学校の先生にお集まりいただく機会がある。そこでも議題にあげさせていただく。
部会長	・事務局が決めたことをやらされるだけで、果たして交流になるのかと思う。いろいろな意見を聞いて検討してほしい。他にご意見はあるか。
委員 9	・個人的には現状の日時で問題ないように思う。やはり年内で実施すべきと思う。一方で今より早くしようとすると市長選挙と重なる。選挙については詳しくないが、重ならない方が良いと思う。そういう意味でも現状の日時が適していると思う。
事務局	・過去を見ていると 11 月の最終日曜日が投開票になると思われる。現状の日時であれば問題ないように思うが、確認させていただく。
委員 10	・説明会では、決める必要があることや決まって進めていること等がわかった方が良いと思う。その方が子ども達もイメージしやすいと思う。
部会長	・修学旅行については後ほど話があるということで良いか。

事務局	・修学旅行について、学校の方で決まっていることがあれば、話していただけるかと思う。
部会長	・個人的に思ったことだが、中学2年生で修学旅行に行くというのは、先生方の思いや学校としての意見で決まったのか。子ども達にとって、本当にそれが良いのか。そうすると新中学校としては修学旅行の思いではなくなってしまう。三中学校で行くか、新中学校で行くか、子ども達にとってはどちらが良いのか。子ども達には聞いたのか。
委員 11	・まだ聞いてはいない。タイムスケジュールや旅行会社の手配を考えるとある程度、決めてしまわないと難しいものがある。現状は案なので、最終決定ではない。
部会長	・新中学校での修学旅行ということであれば、三中学校ではなく、事務局で準備しても良いと思う。やり方はいくらでもあるように思う。
事務局	・修学旅行以外にも3年生にどうするかという話がある。1・2年次は現在の三中学校に通う手前、事務局で一概に決めるのも難しい。都度、相談しながら決めて行くのが良いかと思う。
部会長	・子ども達が置き去りにされていて、大人たちが全てを勝手に決めているように見える。子ども達はどう思っているのか。
事務局	・先程も話したように小学校の先生にお集まりいただく機会があるので、その点についても話したいと思う。
部会長	・教員の都合や今までのやり方ではなく、目指すべき生徒像および学校像から考えてほしい。子ども達はどう思っているのか、本当の意味で子ども達のためを目指してほしい。そのために、今までのやり方や制度があわないのであれば、変えることも必要かと思う。
事務局	・そうした話をまた学校でもしていただけるか。
委員 12	・話をするのは構わないが、とにかく旅行会社への発注が遅れると予定が組めなくなる。
部会長	・旅行会社に依存した修学旅行でなくても良いと思う。旅行会社に頼む事は必須ではない。学校によっては生徒自身で計画して、スケジュールを組んで修学旅行に行くところもある。
委員 13	・それが現実にはできるかという話になる。現状、生徒間でそうした話し合いの機会がない。
部会長	・それは話し合いの方法によると思う。別に学校が間に入る必要性はない。事務局が間に入っても良い。
委員 14	・自身に置き換えると中学校の思い出は3年次の修学旅行が大きい。新中学校で修学旅行に行くとなると、よく知らない子と行くことになると思う。思い出としてはそれでも良いと思う。子ども達がどうしても3年生で行きたいからといって、無理やりにスケジュールを組むというのも現実的ではないと思う。新中学校で合流することを考えると、交流のやり方はいろいろあると思う。部活動などで三中学校の交流があると思うが、見ていると今の子ども達は仲が良い。そうしたことを思うと3年次に行くのでも問題ないように思う。
部会長	・いろいろな可能性を検討したうえで結果的に従来の形になる分には良いが、今までがこうだったからと選択肢を狭めてしまうのは良くないと思う。

事務局 部会長	・いただいたご意見も踏まえながら、学校と協議のもと検討させていただく。 ・駄目だと言いたいのではなく、そうした意見が出たときに相手を納得させる答えができるようにすべき。旅行会社の都合というだけであれば先程のような意見が出てくる。
委員 15	・小学6年生の交流会について、現6年生は、1・2年次を三中学校で過ごしてから3年次に新中学校で合流することになる。一度、三中学校に進む時点で三中学校の中で新しい友達ができるかと思う。その中で3年次を見据えて新中学校全体で集まる必要はあるのか。回数は増えるかもしれないが、三中学校それぞれで説明会および交流会を開き、1年次に向けた仲間づくりをした方が良くと思う。いきなり全体で集まって、そこで何人か友達ができたとしても3年次に合流するまでに繋がるのか。
事務局 部会長	・あくまで案であり、これで決定というわけではない。先程の話も踏まえて、現状、皆さまの考えをお聞きしたい。 ・全体での説明会は必要あるかという話だがいかがか。何名か領いていらっしゃるが、必要ないということではよろしいか。
委員 16	・今年度は今まで以上に学校間の交流をしていく。中学校に向けて小学校での交流を図っていく予定なので、中学入学時に改めて交流する必要性は個人的には感じない。
委員 17	・ある程度の適応能力がある子には、説明会の有無による影響は少ないように思う。小規模な人間関係は平気だが、大規模になると苦手意識を持つような子もいると思う。そういう子については受け皿が必要になると思う。受け皿を用意するためにも、早めにそうした意見について聞く必要がある。意見しやすい環境作りという意味では大規模よりも小規模の方が良いと思う。なかなか大勢の前で意見することは難しい。一校になることでそこから外れる子を減らすためという視点でも説明会が必要になる。
事務局	・事務局で案を検討した際には、三中学校単位で集まる機会はあるが、新中学校全体規模で集まる機会がないため、規模感を体感してもらうことを目的としている。交流会でのゲームの話もしたが、そちらはあくまで副次的なもので、その場で友達を作ってもらうことを目的とはしていない。ジオアリーナでの説明会は、新中学校になった際の人数はどのくらいなのか、同級生になるのはどんな子ども達なのか、ジオアリーナから新中学校までの距離感はどのくらいなのか、そうしたイメージを持ってもらうことが目的になる。一堂に会するという事で交流会でのゲームも予定しているが、絶対にその場で仲良くなってほしいということではない。今までのご意見の中で、事務局としても平均的な部分を見てしまっていたとも感じた。そこからこぼれてしまう子ども達や保護者に向けて、小規模な説明会についても検討していきたいと思う。
事務局	・全体での説明会を12月5日に予定しており、その後、2月に三中学校での説明会および交流会が予定されている。今の話を受けて、12月の説明会についてはイメージを持ってもらう機会として、2月の説明会にて細かな部分を深めていく機会と出来たらと思う。2月については学校主体の説明会となるため事務局が率先するという形ではないが、説明会に同席させていただき、全体の説明の中で聞き漏らしたことなどに対応できるようにしていきたい

と思う。

部会長 ・いろいろな意見が出たので、それらを踏まえて検討いただけたらと思う。大多数ではなく、全体をケアできるように意識してほしいと思う。資料1については他にないようなので以上とさせていただく。続いての説明を事務局より願います。

(学校指定物品・日課表・部活動について)

事務局 ・資料2をご覧ください。今から協議いただくのは説明会でお話しする中身の部分になる。1点目として、まず前回までの協議内容について承認をいただきたい。①通学用カバンについて、大容量のリュック式のものであれば可とし学校指定とはしない。②制服関連について、ネクタイ・リボンが制服業者提案のものとし、カッターシャツ・ポロシャツは無地で白のものであれば可とし、それぞれ学校指定とはしない。③内ズック・外ズックは、学校指定とし学年による色分けはしない。④その他の物品は、学校生活に適したものであれば可とし学校指定とはしない。以上について学校運営部会での決定としてよろしいか。2点目として、今回の協議内容についてご検討いただきたい。①制服のエンブレムの選定手順について、本日を期日として三中学校の生徒より募集したデザイン案から事務局と業者の協議のもと候補を選定させていただき、候補に対して市内の小学4・5・6年生と市内の中学生に投票してもらい、投票結果を参考に学校運営部会で決定する。②体操服のゼッケン(名札)とロゴについて、ゼッケン(名札)は小型のものを胸または袖に付け学年による色分けは行わず、ロゴは業者提案からエンブレムと同様に投票を行い、投票結果を参考に決定する。③夏用長袖体操服の使用について、日焼け対策等のため、希望する生徒の使用を認める。④内ズック・外ズックについて、事務局審査により、現行指定ズック(北部中)を新中学校の学校指定物品として指定する。なお、制服と同様に令和7・8年度は三中学校で使用されていたズックの使用も可とする。以上について、協議いただきたい。

部会長 ・資料2についてご意見等あるか。

委員1 ・通学カバンについては、学校指定ではなく推奨品ということでよろしいか。資料2からは推奨品についての記載が見受けられない。

事務局 ・こちらのカバンが推奨品になる。容量は30Lになる。金額は1万前後になるが、現行の指定カバンも金額的には同程度になる。

部会長 ・似たようなものでもう少し安いものがあった気がする。

事務局 ・あくまでも推奨品は、このくらいの規格であれば良いというのを示すためのものになる。それを買ってもらっても良いし、他の物でも構わない。現行の指定カバンを卸している業者をお願いするとなるとそのようなものになる。業者にも推奨品である旨は伝えてある。

部会長 他にご意見等はあるか。

委員2 ・デザインを採用された生徒に対して何かあるのか。

事務局 ・事務局として検討しているところではあるが、まだ決まってははいない。デザインについて一人のものが採用される場合もあれば、複数人のアイディアを複合的な形で採用する場合もあるため、確定的なことは言えないが、現状では採用された生徒に対して記念品の贈呈を検討している。採用された生徒を公表すべきか否かについても検討が必要だと思う。

部会長	・他にご意見等はあるか。
委員 3	・夏用長袖体操服について、近頃は部活動や仕事等でも長袖のインナーシャツを着用する人が多いように思うが、そうしたものの着用は認めているのか。
委員 4	・着ている生徒もいる。
委員 5	・部活動や体育の授業ではない、教室の授業でも着ているのか。
委員 6	・教室で着ている生徒はあまり見かけない。
委員 7	・教室でも希望すれば着れるのか。運動目的以外にも肌を隠す等の目的で着たい生徒もいると思う。長袖の体操服では暑い場合には、そうしたものの着用を認めても良いと思う。
委員 8	・教室が寒い等で長袖の体操服を着用することは認めている。
事務局	・資料 2 で言及されている夏用長袖体操服とは本日掲示されているものになる。こちらは半袖と同じ素材の長袖になっているため、通常の長袖よりも涼しくなっている。手に取ってご確認いただけたらと思う。
委員 9	・最近の体操服であれば UV カット等の加工はされているはず。
委員 10	・半袖の体操服を買わなくても良いという話ではないのか。
事務局	・半袖の上下、長袖の上下については必須となっている。夏用長袖体操服については希望者の購入および着用を認める形で考えている。
事務局	・体操服の素材については、吸汗、速乾、UV カット、透け防止の機能が付いたものになっている。
委員 11	・内ズック・外ズックについて、色分けをしないとのことだが、子ども目線で困惑することはないのか。委員会活動などで学年と交流があった際に一目で上下の判断ができないと困ると思う。上級生にタメ口で話しかけてしまうことも考えられる。それはあまり良くないことだと思う。親の目線でも靴ひもの色などで学年を区別している。学年ごとの色分けを一切しないとなると判断に困る。
委員 12	・学校目線では昔と比べて生徒数が少ないこともあり把握は難しくない。
委員 13	・色分けされていないからこそ、兄弟のものを弟妹に再利用できるところもある。親目線、色分けが有るから良いとも言えない。色分けされていると再利用できないこともある。靴ひもなら付け替えも容易だが、容易ではないものもある。
委員 14	・勝山高校は今年から体操服が新しくなり、色分けをやめた。現状、覚えられると思う。
部会長	・他校の話を聞いた際にも先生も生徒も自然と覚えられるとのことであった。保護者目線の話は聞けていないのでわからない。
事務局	・ワーキングチーム会議でも生徒の判別や、忘れ物・取り違いの防止のために色分けの必要性をあげる先生もいらっしゃったが、最終的には色分けしない結論になった。既存の形で縛るのではなく、真に生徒のことを考える意識が先生方の中で少しずつ根付いてきた結果だと思う。
部会長	・意見を受けて、また色々と検討していただけたらと思う。資料 2 については以上とする。事務局より続いての説明をお願いする。
事務局	・資料 3 をご覧いただきたい。日課表についての話になる。中身の詳細な部分については学校の都合で 5 ～ 10 分程度の変動はあるかと思う。バスの時間とも関連してくるので、大枠の時間について話をしたい。まず、始業時刻につ

いて、現在の三中学校は8時始業となっているが、新中学校については8時20分とし、通学距離が延びる分の余裕を持たせるために20分遅らせており、勝山高校と同刻になる。8時20分に登校を完了し、1校時の開始が8時40分からになる。下校時刻については、帰りの会終了時刻の16時5分からとしており、放課後活動がある場合には放課後活動終了時刻の17時30分からとしている。1～4校時については勝山高校と同刻になる。朝のバスについては7時50分～8時20分までに学校に着く形になる。帰りのバスについては、放課後活動がない場合には16時40分～17時に、放課後活動がある場合には18時～18時20分に、それぞれ送り届ける形になる。以上になる。

- 部会長
事務局
部会長
事務局
- ・今回の話については決定したいということによろしいか。
 - ・バスの関係もあり、始業と終業については決めてしまいたい。
 - ・ここで決めたことで確定になるということか。
 - ・他の内容と同じように、学校運営部会で決定して、中学校再編準備委員会で承認をいただき、教育委員会として承認する形になる。その後に議論になることはない。
- 部会長
委員 15
- ・案を固めたいということかと思う。ご意見等はあるか。
 - ・校時については素人では判断できない。学校に意見を伺い、学校が問題なければそれで良いのではないか。
- 部会長
委員 16
- ・学校としては如何か。
 - ・校時については変動していくところもあると思うが、バスが18時に出れるように、それまでに終われば良いという話か。
- 事務局
- ・バスの時刻について今お決めいただきたいのは、詳細な時刻ということではなく大体で良い。ただ、運輸局との協議も必要になってくる関係上、始まりと終わりを決めておかないと話ができない。大体で決めた時刻をもとに協議を進めていき、都度調整をしながら、最終的に確定させたいというところをお願いしている。
- 委員 17
- ・日課表の話とは少し違うが、一般の方から質問されたことがある。体育の授業でジオアリーナを使うのであれば、一般の方も利用されているが、その辺はどうするのか。今のプールの授業も一般の方と同じ場所でされている。部活については放課後活動ということもあり、そういったところもある程度前提にしているかと思うが、授業となると一般の方の目がある状況を嫌がる子もいるのではないか。
- 事務局
- ・勝山高校には体育館が2つある。第1体育館は、一度に3クラスが同時に授業できるだけの広さがある。ジオアリーナを活用する必要がない場合も考えられるが、体育館だけでは窮屈になる場合に備えてジオアリーナ活用の可能性も残している。ジオアリーナを活用すると一般の利用との調整も必要になってくる。
- 委員 18
事務局
- ・つまり体育の授業中に一般の方がいる状況になるわけか。
 - ・それは避ける形で調整していく。現状のジオアリーナの使用状況を見ていると、日中の授業時に一般の利用と重なることは考えにくい。一般の利用は放課後の時間が多い。
- 部会長
事務局
- ・現在の活用状況を見ながら調整していくということか。
 - ・そうなる。

事務局	・プールについては全面を貸し切っているわけではなく、7コースのうち2コースと、子ども用の浅いプールを借りて授業をしている。ご時世的にも水着の問題等あるかと思うが、一般利用の方がカメラを持ち込んだり、撮影したりすることはなく、プールの指導員や付き添いの先生がしっかり監視されている。また、水着の上にラッシュガードの着用を認めている。
委員 19	・体育館の許容量の話ではなく、一般の方が体育の授業を見学できてしまうことが気になっている。
事務局	・このご時世なので、用もないのに中学生の体育を見ているようであれば、ジオアリーナの管理室の方で注意喚起をすることになると思う。基本的には入館の際にお声かけするので、用もなく入館されることはないと思う。なるべく中学生と一般の利用が重ならないように調整する。
部会長	・他にないようなので、続いての説明をお願いする。
事務局	・資料4をご覧ください。放課後活動について、現在は部活動と呼んでいるが今後、部活動が地域移行することもあり、新中学校は子ども達の主体性や自主性を伸ばす学校でありたい。従来の部活動にとらわれず、子ども達が自主的に活動したいということがあればできる場を設けてあげたい。来年、入学する生徒が3年生時に新中学校に合流した際に部活がなくなっている状況は避けたい。原則として今ある部は残す形でいきたい。最終的には令和9年を迎える前に何をやりたいのか確認をして活動を設定したい。なるべく生徒の意向を優先したいが、限度がある。実働教員の二分の一という指導があるため、だいたい14~15になる。参加は希望制という形を取りたい。また勝山高校の顧問の先生方との話し合いで高校の部活に中学生が参加する可能性も考えられる。活動時間は月曜日を除く平日の16時10分から17時30分の80分間でやりたいと思っている。新聞等にもあるが地域移行が進んでいて令和8年は全県的に学校としての土日の部活動をしない形になることが想定される。足並みを揃えていきたいと思うが現在の1年生は3年生まで活動できると思って入部している。そこまではしてあげないといけない。令和8年の夏、今の1年生が最後の夏を終えた後は土日はしないという形にしたい。ここで一方的に決めて後は知らないというわけにはいかない。とりあえずはこちらの方針として固めさせていただき、関係機関と協議していく形を取りたい。この方針で良いのかを協議いただきたい。顧問の先生は実数の半分ということは2人で顧問をするということで、極力どちらかがついたらどちらかが休む形で、負担が偏らないようにしたい。令和9年度の姿を想像して地域移行の受け皿的なものをどこかで作れないか検討していく必要がある。大野市がこの夏をもって土日の部活をしなくなる。大野市の子ども達は活動する場所が確保されているとも言える。大野市もしくは勝山高校との連携についても考えている。子ども達がやりたいと感じた時にやれるだけの環境を用意する必要がある。令和7年度の生徒には前もって、3年生になったら1つのチームになることを理解してもらう必要がある。三中学校のままやれると思ったのにということが起こりかねない。3年生になったら勝山中学校チームになるということは説明会の中で伝えたい。令和8年度の夏以降は土日の活動はなくなることを前提に各活動について説明していただく形を取りたい。

部会長	・これに関して何か質問や意見があれば。
委員 20	・先生方の 1/2 ということもあるが、卓球でいうと北部中に卓球部はない。勝山高校も廃部になった。中部・南部はある。令和 7 年度の入学生で、例えば北郷小にいる子がとても強く、新中学校になって 3 年生の時に北部中にはなかったが合同チームになって卓球部に入りレギュラーになることもある。逆に 3 年生で北部中にはなかった女子ソフトテニスや卓球ができるという楽しみもある。1 年生で入ったらずっとやらなくてはいけないというものでもないと思うのでそういった周知もすると良い。中高連携の中での部活動の連携はあると思うが勝山高校の先生方の人数にもよる。例えば中学校で卓球を頑張ったが勝山高校には卓球部がないとなると奥越明成か大野か福井になってしまう。それはそれでモチベーションが下がってしまうので慎重にしないといけない。何年か前にどこかの中学校で生徒が少なくなり部活動を減らした際に非常に揉めた。うまく着地するには生徒がどんなスポーツをやっているのか、なくすのに区長等、いろいろな人が集まって数年掛かりでようやく減らせた。逆に新設するにも慎重になる必要がある。現状の部活が新中学校ではほとんど継続されるので問題はないのかもしれないが子ども達の実状とも照らし合わせて考えた方が良い。
事務局	・例で言うと既に自分の学校にはない部活動について、他校に行って一緒に参加させてもらう生徒もいる。急激な変化にならないような形が望ましいのかと思うので学校とも相談させていただいて上手に着地できると良い。
委員 21	・勝山高校は土日にも部活はあるのか。地域移行は高校はないのか。
委員 22	・原則どちらかは休日にするルールはあるが、土日の活動を禁止する指示は出していない。
委員 23	・土日に高校の先生が中学生を教えてくれるかもしれない。
委員 24	・いろいろなハードルはあるかもしれないが可能性としてはある。
事務局	・既にバドミントン、陸上、バレーボールについては勝山市でも土日の地域移行は始まっている。バドミントンやバレーボールだと顧問の先生が土曜とかも教えているが、先生であって先生ではない扱いになる。一般人として兼業の届けを出して教えている。先生は土日も行っても良いとなると地域移行の話がおかしくなる。あくまでも部活動というサービスを平日も土日もずっとやっている。まずは土日を地域等で教えてもらえないかということで、バドミントンはバドミントン協会がやっている。顧問の先生も教えに行ったりしているがバドミントン協会の人として行っている。立場の違いがあることをご理解いただきたい。
部会長	・地域移行も進んできて部活動の考え方が変わりつつある。数年前に超過勤務、勤務時間外が土日を含めて 80 時間に収まるようにとの議論をしていた。
事務局	・月 80 時間は継続しており、兼職兼業を許可する条件が 80 時間を超えないことになる。
部会長	・土日にオーバーする分は平日に少なくするのが前提になる。
事務局	・バドミントンなどは平日を週 2 日休みにするなど調整している。
部会長	・バドミントンは中高一緒にすると良い。
委員 25	・野球は地域移行していないのか。
事務局	・野球はクラブチームを立ち上げた。そのクラブチームに移行しない生徒が連

	合チームの形で残った。半分だけ移行したような形になる。
部会長	・野球は硬式と軟式があって中高一緒には難しい。バスケット等の接触プレーがあるものは中高一緒だと危ない。
委員 26	・地域移行しやすい競技もあると思う。一般社会人が土日に休日なしで地域移行をみるのは厳しいと思う。正直熱意と根性でやるしかない。協会側の人間としてはそうなる。スポーツ庁もよろしくという感じだし各市も予算をつけてコーディネーターなどもやっているがよくわからない。ゴールが見えない中で勝山として一番ベストを尽くせる形で良いと思う。地域移行は絶対に避けられないと思うし福井市だってやっている。
部会長	・落ち着くまで少し時間がかかると思う。今かき混ざっている段階で浸透していくには時間がかかる。教員は今まで土日なしでやってきたので教員も休めるようにしていただけると良い。他に質問はないか。
委員 27	・活動名の 14・15 が空欄になっているのは何か希望があった際に新しい部活が入るということで丸がついているのか。
事務局	・枠としてはそういう意味である。例えば英会話やプログラミング等、何が出てくるかはわからないが子ども達の中でこういった活動を放課後したいというものがあれば、そこに新設する形をとりたいと考えての枠組みになる。
部会長	・下の方にずらして波線で切っておいた方が良い。2つ限定なのかを見た瞬間に思ってしまう。17 だから2つが残ったのかもしれない。そういうことでよろしいか。
事務局	・あくまでもここに書いてある活動ができるというわけではない。原則的に今ある部活を残そうと考えている。
部会長	・表があるとそこに目がいって既成事実みたいになるので参考とかにしておくが良い。
事務局	・参考という意味でご理解いただきたい。
委員 28	・保護者から意見があった。部活動について現状は各部活で大会等には交通費を出してバスをチャーターしたり各家族で車を出し合ったりしている。新しくなる中学校で専用のバスはどうなのかと声があった。
事務局	・バスの方もPTA部会等で出ており、国の補助金等でバスを買うメニューはある。そのバスに乗れるかどうかを今後検討していく。ただ購入したバスが自由に使えるかどうか、基本的には補助金で買うバスは朝夕の登下校に使うのが主な目的になる。その空いている時間に使えるかどうか。運行業者に運行をお願いするとナンバーの色が緑ナンバーになる。例えば学校の教員が免許を持っているので空いている時間に動かせるのか法律もクリアする必要がある。運輸支局と相談しながら今後検討していきたい。
部会長	・バスがあっても誰が運転するかという問題もある。
委員 29	・土日に部活動ができなくなるとクラブで練習試合に行くことになる。顧問は入っているが教員としてではない。土日に部活をしてはいけないなら土日に大会はできない。矛盾しているというか動きが全く見えていない。県内では土日の部活をなくすのがほぼ主流で、一番早いのは大野市で来年度からなくす。文書もたくさんある。池田や永平寺もなくすと言っている。そうになると練習試合はどうなるのか。夏休みくらいしかできなくなる。
部会長	・他にはよろしいか。聞き漏らしたのかもしれないが、表の下にある「可能な

	限り連携する」はどれについての説明か。
事務局	・特にこの種目が連携するというわけではない。ワーキングチーム会議の中では高校の先生も一緒に議論しているので、顧問の先生方の考え方によっては可能ではないかという意見だった。それを考えると可能性があるという意味になる。
部会長	・一番下にあるので何かの補足説明かと思った。
事務局	・高校と2つ並べてあるのでそのように書かせていただいた。
部会長	・他に質問等ないので、続いての説明をお願いします。
	(中高連携一貫教育について)
事務局	・中高連携についての話になる。新中学校を高校の敷地に作り中高の連携を図ることで、連携型中高一貫教育を進めていきたいと考える。目的としては子ども達の学力および個性を伸ばし、中高を共に発展させることを目指している。ワーキングチーム会議でも協議しており、県教委との協議も始まっている。前回の学校運営部会でも協議いただいている。これまでにいただいた意見は参考資料の2番のとおりになる。それを踏まえた上での案が参考資料の3番になる。以上になる。
部会長	・意見や質問はあるか。
委員1	・前回、あわらと越前と美浜について説明があった。今回の提案は単独の連携クラスは設けないが、勝山高校連携生徒については簡便な入試しかないようになっていく。美浜若狭は連携高校以外に進学しても良いということであわら・越前は進路確定組になっていた。ここに準じた形になっていると想像できる。このようにするのであれば他の高校へ進学しても良いという学校もあるが、こういうメリットがあるから勝山としては連携生徒は慎重に選んだうえで簡便な入試になるので基本的にはそこに行ってほしいという説明が必要かと思う。なぜかという福井県内にそうではないところがあるから。他はこうなのになぜかこれを選んだのかと質問がくる。勝山市としてはこの形にしたとなれば良いと思う。
部会長	・ご意見として伺っておく。他に気が付いたことはないか。
事務局	・今の指摘が勝山高校連携生徒になったら全員勝山高校に行かなくてはならないという図に見えるということか。
委員2	・見えてしまう。
事務局	・そうした意図で書いているわけではない。図式上そうだったがそのところも今後議論していく必要がある。
委員3	・進路希望をとるとあるが学力とかはどうなるのか。
事務局	・前回説明したように金津の考えでいくと連携クラスに入るための試験をしている学校もあるし面接等で決めている学校もある。そこもどのようにしていくかを今後検討していく必要がある。
部会長	・今後の検討課題ということになる。
委員4	・学力を落とすたくない。
委員5	・簡単な入試で入れるようにする理由は何か。
事務局	・併設型の学校についてはそのまま入試なしで入る。受験のためにやろうとしていることをいったん止めて入試の勉強をする。そうではなくやりたいことが中高通してやっていけるメリットを生かしていこうとするのが本来の趣

	旨だと思っている。連携生徒は勝山高校にいてさらに伸ばしていこうという意図があるので入試勉強をせずにいける方が良いのではないかな。そういう趣旨で簡便な入試にしていると理解している。
部会長	・ 確かな学力の「学力」の定義をしておくべき。テストの点数をとれることなのかと思ってしまう。目指す中学校像と表現が少し違う部分がある。これは勝山高校の目指す生徒像か。表現を見ていただくと良い。突然出てきた文章であるならば整合性をとるべき。気になるのは均等クラスはあえて書かないといけないのか。上の方は均等ではないと言っているような気はする。全中学生在受けられる連携プログラムが1年生だけなら卒の書く場所を考えた方が良い。3年間ならそれはそれで良い。
事務局	・ 意図としては3年間教えていただける形になる。
部会長	・ 1年生か全体なのかがわかりにくい。見せ方の問題。
委員 6	・ 勝山高校連携生徒と連携生徒以外の勝山高校志願者は入試の試験内容とか点数で場合によっては一般入試の生徒の方が点数が高くて落ちる可能性はあると考えて良いか。3年生までは勝山高校を希望していなかったが途中から勝山高校に行きたいとなった際に通常の入試で受けたとする。実際の合計点数を見たら連携生徒以外の生徒の方が点数が高いのだが連携生徒が優先され、勝山高校に受からない子も出てくる。
事務局	・ 骨格ということはどうやって分けるのかも決まっていない。純粹に字面だけを見れば5教科の点数でひっくり返っている可能性は出てくる。
部会長	・ 落ちるような生徒が出るくらい集まると良い。
委員 7	・ 要望になるかもしれないが勝山高校の連携生徒は学力もつけて入っていただきたい。簡便な入試で良いと思うが、受験勉強はしなくて良いとなると、同じクラスに受験勉強をしている子と、簡便な入試で入るので違う勉強をしている子が混在する。それはうまくいくのか。検討してやっていただきたい。折角このようにするのだから学力をつけて入っていただきたい。また、勝山高校がなくならないように人数を確保していただきたい。
部会長	・ 他にないようなので本日は以上とする。事務局にお返しする。
事務局	・ 遅くまでありがとうございました。たくさんのご意見をいただいたので持ち帰って検討をさせていただき次の協議につなげたいと思う。次の部会の日程は未定だが7月11日(木)に第1回総務部会と第2回再編準備委員会を予定しているのでよろしくお願いしたい。これで第2回学校運営部会を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

【資料1】 令和7年度 中学校入学生交流会・説明会実施要項（案）

【資料2】 学校指定物品について

【資料3】 日課表

【資料4】 放課後活動について

参考資料 連携生徒のあり方について